

国語 知識・技能総合入試2期

(解答番号 ① ～ ⑯)

次の【文章Ⅰ】、【文章Ⅱ】は、いずれも齋藤純一「国際社会における公共哲学」(『公共哲学入門 自由と複数性のある社会のために』所収)の一節である。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えなさい。解答番号は ① ～ ⑯。

【文章Ⅰ】

国際社会には、貧困のみならず深刻な不平等も存在する。この不平等は政治的その他の交渉力における大きな格差をもたらし、国際社会に優位・劣位のハイアラキーをつくりだしている。貧困が「比較によらない不正」(a non-comparative wrong)であるとすれば、過度の不平等は「比較にもとづく不正」(a comparative wrong)である。実際、グローバルな制度の創設や維持には交渉力の違いが如実に反映されており、劣位の側の発言力は制約されている。一方で、主要国や国際機関の政策は、グローバル化が深まった環境において、ほとんどあらゆる社会に生きる人びとをその影響を被るステークホルダー(利害関係者)としている。

国際社会のステークホルダーの意見や意思を国際的な政策決定にどのようにつなげていくことができるだろうか。次の四つの対応に整理しておきたい。

第一に、国連主導のもとで諸国家間の協調を促すという点では現状と大きくは異ならないものの、国連の諸機関や国際機関により多くの権限を与えることを通じて、諸国家の恣意を制約しグローバル・ガバナンスの実効性を上げていくという対応である(D・ミラー、R・ダール)。

第二に、国際社会においても多層的・多機能的に民主的正統化の連関をつくりだしていくという構想がある。グローバル・ガバナンスがアウトプットの面での正統性を高めようとするものであれば、これはインプットの面で市民の意思を代表する多元的なルートを制度化しようとするものである(デイヴィッド・ヘルドラ)。

第三に、NGOなどステークホルダーの代表が、実質的な政策形成の過程に参加するルートを築き、アカウンタビリティを確保していく構想がある。これは、立法過程における代表というよりも行政過程における代表を重視する(J・ボーマンら)。

最後に、国際社会においてもインフォーマルなコウキョウケンにおける諸言説の抗争を重視し、対抗的な言説の形成を通じて政策決定者に間接的に影響力を及ぼしていくという考えがある(ジョン・ドライゼクら)。この考えには、実質的な政策転換を図っていくためには、制度の再編にコシツするよりも、一定の時間をかけて越境的に対抗的な言説を共有していくことのほうが有益であるという認識がある。たとえば「持続可能性」という言説が「成長」や「開発」

の言説を相対化してきたことに見られるように。

これらの考えはもちろん相互に排他的なものではなく、安全保障理事会をはじめとする国連の改革、多層的・多機能的なフォーマルな代表の選出、政策形成への参加とアカウンタビリティの強化、そしてトランスナショナルなコウキョウケンの形成とそれを通じたアジェンダ^{*}の設定などは並行して多元的に進めることができる。

グローバルな不正義を認識し、そのシユクゲンを進めていこうとするとき、諸国家（の協調）や国連の諸機関が有力な担い手であることは言うまでもない。これらのアクターは、国際社会の秩序の維持、とりわけ即時の対応が求められる諸々の「危機」——安全保障上の危機、公衆衛生の危機、食糧危機、難民危機、そして金融危機など——に一定の力を発揮していることは確かである。アムネスティ・インターナショナル、ヒューマン・ライツ・ウォッチ、国境なき医師団などのNGOも人道的危機などに公共的な注目を喚起するとともに、緊急支援の担い手ともなっている。

しかしながら、いわゆる対症療法を超えた取り組み、不正義を再生産している制度や慣行、I・M・ヤングのいう構造的プロセスを変えていくという取り組みについてはどうだろうか。この面では、ドライゼクが指摘するような国際社会における時間をかけた（対抗的な）意見形成と、それをリードする社会運動の果たしてきた役割が大きいと思われる。

気候変動を生みだしている諸要因についてはすでに長い歴史をもつ運動があるし、グローバルな垂直的分業が生みだしている問題についてはヤング自身もコミットした「アンチ・スウェットショップ」運動などがある。また、政治的に無力とみなされがちな貧困者自身が形成している運動として「スラム居住者国際ネットワーク」や「ヴィア・カンペシーナ」（中小農業従事者組合の世界組織）を挙げておきたい。フェアトレードは、消費者と生産者とがどのように結びついているかについての認識を喚起する運動として一九六〇年代に始まったが、いまでは——生産者自身の交渉力を高めることに資しているのかどうかには疑問もあるが——大手の企業も関与する取り組みとして定着している。

社会規範を組み換えていこうとする運動には長い時間がかかるし、その効果をエヴィデンスにもとづいて測定することもにわかには困難である。運動の成果は、後に振り返ったときにはじめて明らかになる場合も多い。しかし、たんに資源を移転するだけでは、短期的な効果は眼に見えやすいとしても、不正義を再生産している構造的な問題の解決にはつながらない。社会運動に問われるのは、当事者自身の「エンパワーメント」を導くことができるか、つまり、直面している問題に対してけつして無力ではなく、支援を得て自らコントロールを及ぼすことができるという認識を生みだせるかどうか、である。

いずれにしても、グローバルな不正義のシクゲンを図っている行為主体は多元的に存在しており、公共哲学は、それらの間にどのようなコンフリクトがあり、またどのような協調の可能性があるかを見ていく必要がある。

国際社会において「^ウ世代間正義」(intergenerational justice)を考慮に入れることは、グローバル・ジャスティスの不可欠な要素である。このテーマは、人口過剰や資源^Dコカツのおそれ、環境の悪化を背景として一九六〇年代半ば頃から国際社会において公共の関心事として浮上した。運命共同体のイメージを喚起する「宇宙船地球号」という言葉が広く使われるようになったのもこの頃である。ドイツの哲学者ハンス・ヨナスは、『責任という原理』(一九七九年)で、私たちにとって最も重大な責任は「人類の存続への責任」であり、この責任はそれ以外のあらゆる個別的な責任に先行すると明言した。この頃から、主に倫理学の分野を中心に、将来世代への責任のみならず、生物多様性を含む地球環境の保全への責任をテーマとした議論が活発となり、現在へといたっている。

人びとの「間」は空間軸のみならず時間軸をもっている。将来世代に対して現世代はどのような責任を負っており、その責任をどのように果たすことができるかを検討するのも公共哲学にとって重要な課題である。

ロールズは、空間的には閉じた社会を想定した『正義論』においても、その社会が時間的には開かれていることを強調した。社会的協働は諸世代にわたるものであり、現世代が自己優先を図ることは避けられねばならない。原初状態の当事者には、現世代が諸世代の連鎖の中でどこに位置を占めるかの情報も無知のヴェールによって遮られる。この制約のもとで、当事者は「正義の二原理」とともに「正義にかなった貯蓄原理」(just savings principle)についても合意する、とされる。

貯蓄原理は、先行する諸世代に期待するような一定の資本の蓄積を、後続する諸世代のために行うことを要請する。この蓄積は、正義にかなった社会の基礎構造を持続可能なものとする条件を確保するためのものであり、資本の蓄積それ自身が自己目的化されるわけではない。各世代は貯蓄原理によって定められた「実質的な資本に換算された公正な等価物」を次の世代に受け渡していくことが要求される。この広い意味での「資本」には、物質的なもの(富)にとどまらず、正義にかなった諸制度を成り立たせる技術や技能、知識や文化も含まれる。

サミュエル・シェフラーは、『私たちはなぜ将来世代を気づかうか』(二〇一八年)で、たんに正義にかなった社会を維持するだけではなく、過去の世代が価値づけ、大切にしてきた事柄を将来世代の人びとに伝えていくことが重要だとしている。自らを中心化せず、こんにちの私たちに伝えられてきたものを恣意的に処分しないことを求める考えは、生命と対比される世界

への関心の回復を求めたアーレントの議論に通じるところがある。いずれにしても、過去の人びとが価値づけてきたものを保守するとともに、将来世代に生きる人びとの根本的利益を確保し、その利益を回復不可能な仕方で損なわないことが世代間正義の基本線となるだろう。

グローバル化が進展し、深まった条件のもとで、デューイのいう影響関係もまさにグローバルに拡^{ひろ}がっている。その意味で、グローバル・イシューと呼ばれる諸問題は私たちの公共的な関心事にもなっている。人権をはじめとする公共的な価値の実現に誰がどのような責任を負っているのか、きわめて多元的な社会において私たちがともに受容しうる公共的な価値をいかにして特定することができるか。これらも公共哲学に問われているのである。

(注) *ハイアラキー……ヒエラルキー(ピラミッド型の組織。階層構造)のこと。

*アカウンタビリテイ……説明責任。報告義務。

*インフォーマル……非公式。

*トランスナショナル……一国の利害にとられない。

*アジェンダ……課題。議題。

*コンフリクト……利害の対立や意見の衝突による緊張状態。

【文章Ⅱ】

アーレントは、十九世紀以降の近代社会の病理を「社会的なもの」(the social)が一次元的にヒダイ化したところに見る。^E「社会的なもの」の領域から排除されるのは、「世界への関心」^Eである。世界とは、これまで人間の手で構築されてきたものからなり、思想や芸術の作品、建築物、そして法や制度がそれを構成している。この世界が、空間的にもまた時間的にも人びとの「間」に介在し、人びとを結びつけると同時に人びとの間に距離を設けている。公共的領域はこの世界に位置している。「世界は、人為的なもの、人間の手によって作られたものを表すとともに、人間の手になる世界に共に生きる者たちの間に生じる事柄をも表している。世界に共に生きるということは、ちょうどテーブルがその周りに席を占める人々の間にあるように、物事からなる世界がそれを共有する人びとの間にあるということを本質的に意味している。世界はあらゆる間 (in-between) がそうであるように、人びとを関係づけると同時に切り離す間である」(『人間の条件』)。

アーレントによれば、世界は、その時々利害関心に左右されずに存続すべきものであり、「生命への配慮」——個人であれ集団であれ、その生命に利するかどうかのみを気づかう態度——がその妥当性を失うべき領域である。にもかかわらず、生命を超えた耐久性をもって世界

にとどまっていくな物を、生命の維持や増強に資するか否かという観点からのみ評価してきたことに近代社会の問題はある。

（本文中に一部省略したところがある）

問1 二重傍線部A～Eに相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それ

ぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は①～⑤。

A コウキョウケン

①

① 雪でシュトケン_〓の交通が麻痺_{まひ}した。

② ピアノでショケン_〓の楽譜を弾く。

③ 我が社運は君のソウケン_〓にかかっている。

④ 瞬_{とき}く間に市場をセツケン_〓した。

⑤ ジンケン_〓でできたストックキング。

B コシツ

②

① 業界のシツギョウリツ_〓が下がる。

② カタツムリ飼育に最適なシツド_〓。

③ 手を叩_{たた}いてシツジ_〓を呼ぶ。

④ キョシツ_〓が暑いのでエアコンを入れる。

⑤ 高いヒンシツ_〓を誇る商品。

C シュクゲン

③

① シュクシュクと作業を進める。

② 学校は社会のシュクズ_〓である。

③ 長年のシュクガン_〓を果たす。

④ 兄は太宰治_{たざいおさむ}にシシュク_〓している。

⑤ 前途をシュクフク_〓する。

D コカツ

④

① 祖母はコキ_〓を迎えた。

② コジン_〓をしのぶ会を開く。

③ 敵陣に斬り込みコゲンフントウ_〓する。

④ 年齢を重ねてコタンの境地に至る。

⑤ コウコ_〓の憂いを断つ。

E ヒダイ

⑤

① ヒシシヨクブツ_〓の化石を調べる。

② 男女のヒリツ_〓を等しくする。

③ 彼は容疑をヒニン_〓している。

④ ジヒ_〓深い表情を浮かべた聖母の絵。

⑤ 畑_〓にヒリヨウ_〓をまく。

問3 傍線部イ「いわゆる対症療法を超えた取り組み」とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は ⑧。

① 国際社会の秩序の維持のために即時対応が求められるものに対して、国連の諸機関などが一定の力を発揮していくこと。

② 公衆衛生の危機や人権が脅かされる人道的危機などに対して、公共的な注目を喚起するために、緊急支援などを行うこと。

③ グローバルな制度を創設し、国際社会のステークホルダーの意見や意思を国際的な政策決定につなげていくこと。

④ グローバルな不平等を生み出す構造的な問題に対して、長期的な視点で人々の意識に変化をもたらす社会運動を継続すること。

⑤ 諸国家の協調のもと、現状の制度や慣行そのものには手を加えることなく、喫緊の問題に対して一時的な措置を施すこと。

問4 傍線部ウ「『世代間正義』とはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は ⑨。

① 人口過剰による環境の悪化などの国際社会の公共の問題を、世代を超えて協力し合って乗り越えるための指標。

② 地球資源の有限性を説き、運命共同体としての国家間の協調を図るために提唱された「宇宙船地球号」という概念。

③ 前世代からまだ生まれていない将来の後世代に対して配慮する責任を課題とする、時間軸をもった倫理論。

④ あらゆる個別的な責任よりも、「人類の存続への責任」を、最も重大な課題として優先することを正義とする思想。

⑤ 生物多様性を含む地球環境の保全を図ることが人類の責任であることを広く周知させるための公的な動き。

問5 波線部「生命と対比される世界への関心の回復を求めたアーレントの議論」とあるが、

【文章Ⅱ】はそれに関連する部分である。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を踏まえて、(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 傍線部エ『社会的なもの』の領域から排除されるのは、『世界への関心』である。」とあるが、アーレントはなぜ「世界への関心」が排除されることを憂慮したのか。その説明として最も適当なものを、次の⑩～⑮のうちから一つ選びなさい。解答番号は

⑩。

① 世界は人びとの「間」に介在し、人びとを結びつけるものであるため、世界と共に生きるということを忘れてしまえば、人びとの間に隔たりが生まれてしまうから。

② 世界はこれまで人間の手で構築されてきたものであるにもかかわらず、近代社会は、これまで蓄積されてきたものをすべて前近代的なものとして排除してきたから。

③ 世界は生命を超えた耐久性をもつのに、生命の維持や増強に資するか否かという観点からのみ評価することにより、世界の妥当性が排除されてしまうから。

④ 世界を構成する思想や芸術作品、建築物、法や制度などは次の世代に受け渡していくべき資本であり、その時々々の利害関心に左右されることなく存続すべきものだから。

⑤ 空間的にも時間的にも人びとの「間」に介在する世界の事物を「社会的なもの」の領域から排除すれば、いずれ「社会的なもの」までも失われてしまうから。

(2) サミュエル・シェフラーの考えは、アーレントの議論に「通じるところがある」とあるが、どのような点で共通するのか。その説明として適当でないものを、次の①～⑥のうちから一つ選びなさい。解答番号は ⑪。

① 過去の世代が蓄積してきた資本が未来に生きる人びとの根本的利益になり、それが空間的・時間的に我々を結びつけていると考えている点。

② 公共的な価値のあるものを恣意的に処分して、将来世代の人びとの利益を回復不可能な仕方で損なうことを戒めている点。

③ 現代の人びとが長期的な視点をもたず、人類共通の資本を自己利益のために使うことは、社会正義に反することであると考えている点。

④ 社会的協働は諸世代にわたるものであり、現代の人びとが自己優先を図れば、資本の蓄積自体が自己目的化されると戒めている点。

⑤ 先行する諸世代が価値づけてきたものを守り、正義にかなった社会の基礎構造を持続可能なものとするべきであると考えている点。

問6

次の(1)～(5)は、本文を読んだ生徒五人の感想である。本文の内容や趣旨に照らして、適当なものには①を、適当でないものには②を、それぞれ選びなさい。解答番号は

⑫

⑬

。

(1) 生徒A——国際社会には貧困や不平等が存在しているけれど、そのことが交渉力の違いとなって、政治的な格差を生むんだね。交渉力や発言力の違いは、優位な側にとって都合のいい制度の創設や維持につながるから、貧困や不平等にいつそう拍車をかけることになりそうだ。

⑫

(2) 生徒B——だからこそ、ステークホルダーの代表が実質的な政策形成の過程に参加できるようになるべきなんだよ。たとえば、発展途上国との貿易において、公正な取引を行って途上国の人びとの生活を助けるフェアトレード運動の広がりがその成果の一例と言えるね。

⑬

(3) 生徒C——不正義の再生産を解消するためには、制度の改革をただ待っているのではなく、ステークホルダーの代表や社会運動の当事者が、情報やリソースを共有し意思決定の過程に参加して、運動の成果をデータとして明確に測定できるようにすることが必要だね。

⑭

(4) 生徒D——社会運動の当事者には「エンパワーメント」が重要だともあったね。直面している問題に対してけっして無力ではなく、自律性と支援によって外的に影響を及ぼせるという認識は、社会運動の当事者でなくても必要なことだと思ったよ。

⑮

(5) 生徒E——グローバル化が深まった現代では、多元的に分かれた利害や価値観をどのように一元化するのが問われていて、食糧危機、難民問題、安全保障上の危機など多くの重要問題の解決に向けて、フォーマルなグローバル・ガバナンスが必要だと筆者は訴えているんだね。

⑯